

ひと
女

ひと
男



男女が共に生きるメッセージ



パートナーシップ

問合せ先 企画課男女共同参画推進係 ☎72-2111内線222

教育における男女共同参画



4月から新しい環境での生活が始まった人も多いと思います。
自分がやってみたい！と思ったことに挑戦できていますか。知らず知らずのうちに身についたものの見方や考え方が、あなた自身や子どもたちの選択を制限しているかもしれません。子どもたちのもつ可能性や、能力を伸ばせる環境をつくるためにも、柔軟なものの見方が大切です。

今回は、教育における男女共同参画について考えてみましょう。

あなたのもつイメージをチェックしてみましょう

教育の場で、性別に関するこんなイメージをもっていないですか。次の6つを読んで、あなたはどんなことを感じますか。

算数や理科は男子、国語や音楽は女子に向いている

部活動のマネージャーは女子が向いている

学校の保護者欄には父親の名前を書く方がいい

男子が身なりを気にしたりおしゃれに気がつかったりするのはおかしい

女子の進学や就職先は地元がいい

男子には将来のために、勉強でもスポーツでも厳しく指導すべきだ

男性の先生は厳しく、女性の先生は優しく子どもに接してほしい

PTA会長は男性の方がいい

女子の成績がいいと「男子だったらなあ」と残念に思う



「そのとおりだ」と思ったものが多かった人ほど、無意識のうちに性別による「らしさ」を期待しているのかもしれませんが。子どものもつ可能性や能力を伸ばし、主体性や積極性を育むためにも、「男らしく」「女らしく」の枠にとらわれずに、一人ひとりがもつ個性を尊重することが大切です。

性別に限らず、一人ひとりの「ちがい」を認め合える柔軟なものの見方を心がけてみてはいかがでしょうか。

子ども同士の関わりの中でも、お互いの「ちがい」を認め合える関係を築けるように、手を差し伸べることも必要かもしれません。



おごおり女性ホットライン ☎092-513-7337

月～金曜日／午前10時～午後5時(祝日、12月29日～1月3日を除く)

配偶者や恋人からの暴力についての相談のほか、セクシュアル・ハラスメントや仕事、地域、家庭のことなどさまざまな悩みに、専門の相談員が対応します。



配偶者や恋人からの暴力に悩んでいませんか？
ひとりで悩まずに相談してください。

